

## 公共図書館における開架フロアのレイアウトやゾーニングが 利用行動に与える影響

鈴木 愛望

近年、ユニークなレイアウトやゾーニングを施した公共図書館が増えている。公共図書館の在り方が多様化する現代において、利用者の様々なニーズに対応した快適な空間づくりのために、公共図書館における開架フロアの平面計画と利用行動に関する研究が必要である。

本研究では、公共図書館における開架フロアのレイアウトやゾーニングが利用行動に与える影響を明らかにすることを研究目的とする。

図書館建築賞の第1～34回の受賞館のうち、公共図書館66館を対象に、(A)ワンフロア型の類型化、(B)多層フロア型の類型化、(C)複合型図書館の類型化、(D)観察調査を行った。(A),(B)では、一般書架エリア・児童書架エリア・参考図書エリア・カウンター・出入口が一つのフロアに配置されている場合を、「ワンフロア型」(44館)、これらのうちいずれかの要素が別のフロアに配置されている場合を「多層フロア型」(22館)に分類し、その中で上記の要素の位置関係などから詳細な類型化を行った。(C)では、複合施設に属している図書館を「複合型図書館」(14館)とし、含まれる施設の種類や、図書館の出入口と図書館以外の施設の出入口の数・位置関係から類型化を行った。(D)では、(A)～(C)の類型から、類型の異なる公共図書館3館を選出し、来館者の利用行動を観察した。一般書架エリア・児童書架エリア・カウンター・滞在スペース(閲覧席・自習室・研究個室など)の4つのエリアの中で、来館者が入館後最初に向かったエリアを利用者属性別(児童・学生・一般男性・一般女性・高齢者・親子)に調査した。

調査結果は以下の通りである。類型化に際し、一般書架エリア・児童書架エリア・参考図書エリアを三要素と総称した。(A)では、三要素共存型(17/44)・児童書架分離型(14/44)・参考図書分離型(9/44)・三要素分離型(4/44)の4類型、(B)では、児童書架独立型(8/22)・参考図書独立型(10/22)・三要素独立型(2/22)・コアカウンター型(2/22)の4類型、(C)では、併合型(4/14)・集合型(7/14)・独立型(3/14)の3類型に分類した。(D)では、調査結果から各利用者属性の利用パターンを明らかにし、利用者層別の動線図を作成した。それらは類型のレイアウトやゾーニングの特徴によって異なる傾向を示した。

本研究を通して、公共図書館における開架フロアのレイアウトやゾーニングが、利用者の利用パターン・動線等に影響することが明らかになった。加えて、利用者の属性によっても利用行動の傾向は異なることが明らかになった。多様化する公共図書館の在り方に合わせて書架や閲覧席などのレイアウトやゾーニングを変えることで、時代のニーズに適した公共図書館を提供することができると考えられる。

(指導教員 逸村裕)